

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300200		
法人名	社会福祉法人 ミツ葉会		
事業所名	楓荘グループホーム 牧の家	ユニット名	そよかぜユニット
所在地	宮崎県延岡市牧町4651番地		
自己評価作成日	平成28年1月8日	評価結果市町村受理日	平成28年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kanistrue&lizyosyoCd=4590300200-00&PraFcd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様が立ち寄りやすいような雰囲気づくりをし、地域の方々に笑顔で挨拶をする。地域の行事にも積極的に参加することで、顔なじみになり、緊急時や災害時でも協力できる関係性を作る。敷地内の畑で取れた作物を料理に使ったり、漬物を漬けることで、利用者の方々の楽しみややりがい、はり合いにつながっている。
10月までは地域の小・中学生が施設のカラオケ部屋や多目的室を利用し、毎日元気な子供たちの声が聞こえていた。少しずつ利用者との関わりもでてきていたので、喜んでいたのですが、11月より学校側より利用禁止となる。今後はまた違った方法で地域の子供たちと関われるよう、工夫していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して間もないホームであるが、地域との交流を図ろうとホーム長、職員が共に努力している。地域密着型サービスの意義を踏まえて、多目的室での音楽療法を兼ねたミニコンサートや地区の推進チーム、学生を含めての介護予防教室などを開催している。また、地域の運動会やクリーン作戦に複数の職員と共に利用者も多数参加するなど、顔なじみになる努力を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その行為は利用者のため、地域のため、職員のためになるのかを日々意識しながら対応している。		ホームの目的を理念としており、日々の振り返りと共に全職員で共有し、日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶はかかさずに行い、地区の行事(運動会、クリーン作戦、避難訓練)に参加させていただき、地域の方々との会話もみられている。		地域の行事には、複数の職員と共に利用者も多数参加するなど、積極的な交流を図っている。また、散歩時に、近隣の人に積極的に挨拶するよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の推進チームの活動で自施設を利用してもらい、交流を図っている。また、地域の小学生、中学生が見学や交流に来てくれたときは、認知症についての説明もしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長を始め、市の職員、地域の方、家族代表の方からも意見をいただき、より良いサービスにつながるよう、進めている。		運営推進会議には、地域の人や知見者、家族代表の参加が多数あり、ホームの日々の取組を報告し、意見をもらえるよう努力している。会議で出された意見を日々のサービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも、疑問点等はすぐに連絡、相談を行い、協力していただいている。		市の担当者が運営推進会議に出席している。また、日々のサービスでの疑問点や相談事があればすぐに電話するなど、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の窓も一般的な鍵になっているので、居室からの出入りも自由に出来る。もし、敷外にでるような場合でも無理に止めるのではなく、職員が同行することで、安全に配慮した対応ができています。		モニターや赤外線センサーを用いて職員間で連携を密に取り合い、利用者の安全を重視した、寄り添うケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、虐待につながるようなケース、行為はみられていない。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時には関係者と話し合い、活用できる連携体制を心がけている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をしたうえで、疑問点等は質問していただくよう、常に声掛けをしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡にて、ご家族と情報共有する機会を意識的につくっている。		家族の来訪時や電話連絡時に、利用者、家族が意見や要望をだしやすい雰囲気となるよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議以外でも、常に意見を出せるよう、個人のノートを作成し、意見交換をしている。		全体ミーティングで、職員の意見や要望を聞いている。また、個人ノートを作成し、毎日管理者と交換することで、情報の共有を図り、意見や要望を伝える機会となるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりとの会話の時間を持つようにし、体調の変化等に気づけるようにしている。また、職員から出た意見や行動は自発性を大切にし、フォローしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会以外にも、必要に応じ、研修参加を図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所に出向いたり、研修等で同席した際には、積極的に情報収集をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報に頼りすぎずに、実際に接した情報を職員間で共有することで、寄り添った関係作りをしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでの葛藤や入所後の不安等といった状態なので、ゆっくりと話を聞き、入所後も共に介護をしていけるよう、より良い関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要以上に手出しをすることなく、本人がゆっくり生活できることを優先していくことを家族にも話をしていく。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や掃除、調理等、本人ができる部分を生かしていけるよう、教えてもらうなど、一緒に活動できる環境を作っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に施設のあり方、ご家族との関係性を重視していることを伝え、協力していただいている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地区の行事への参加等、ご家族の協力で継続されている方もいる。	家族の協力を得て、カラオケ教室や住み慣れた地区行事への参加を継続している利用者もいる。また、同法人のケアハウスが開催する書道教室などに参加している利用者もあり、送迎支援がなされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の役割分担や関係性が出来てきているので、不足分を補うよう、職員が配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも連絡や来設していただけるよう、声かけをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望の中で、出来ることから少しずつ対応している。夜間の入浴や飲酒も、安全に配慮し、対応している。		日々のかかわりの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、本人の希望や要望を家族とともに検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報だけでなく、本人と馴染みの関係を作ることで、本人から話ができる環境を整える努力をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態にあわせ、活動も無理強いないで参加できることの把握をしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態、状況に合わせた介護計画になるよう、意見交換をしながら作成している。		モニタリングを毎月行い、本人の状況に即した介護計画となるよう、全職員で検討しているが、一部の職員は、まだモニタリングを行うまでには至っていない。	開設したばかりで、若い職員も多いが、全職員が介護計画作成に携わることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細やかな部分まで記録に残すことで、情報の共有をはかり、実践に繋げている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と協力し、可能な限り、柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設初年度の為、地域資源を把握しているところである。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族に対応してもらい、「受診情報シート」や申し送りにて、情報を共有している。	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診しており、定期受診は家族が対応している。ホームは、日々の様子などを記載した「受診情報シート」や申し送りで家族と情報を共有し、医療機関と連携を図るよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には医療機関と情報を共有し、出来る限りの対応をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関にも顔合わせに行き、入・退院時には情報交換が行いやすい関係性を保つ努力をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、必要であれば、家族、本人、医療機関と話し合いをしながら、方針等を検討している。	入居時に家族、本人と話し合い、状況に応じ検討しているが、記録には残していない。	本人や家族との話し合いによる方針を意思確認書などの形で記録し、職員、家族、医療機関が情報を共有することを期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変や事故に遭遇した職員が他の職員へ状況を報告することで、自分だったらどうするかを考えるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の避難訓練にも参加し、地域の方々への協力依頼もしている。	地域の災害訓練に参加し、また、ホームでの訓練も行っている。今後、地域の方の協力を得て、夜間想定災害訓練を行えるよう計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、対応を心がけているが、時折、言葉使いに注意すべきこともある。		若い職員も多く、特に利用者への言葉かけに配慮している。援助が必要な時にも、さりげないケアができるよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務優先ではなく、利用者優先で対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や畑仕事など、本人がしたいときに対応できる体制を声掛けすることで作っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧、整髪、髭剃りには常に気をつけるよう、声掛けをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に、食事の準備、切り込み、調理とできる範囲でやってもらっている。		ホームの畑で採れた野菜を料理に使ったり、行事食としてオードブルや弁当を多目的室や外で楽しむなどの工夫をしている。また、下ごしらえなどを利用者と共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事には不満は聞かれていないが、体重の増加がみられているので、今後、検討が必要である。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、一部介助で対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮しながら、トイレ誘導や失敗の対応をしている。		自室のトイレを使用する利用者もおり、排せつパターンをさりげなく確認し、支援につなげている。失敗した時にも自尊心に配慮し、さりげない対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては、水分や下剤の調整で、定期的な自然排便を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望者は毎日入浴し、夜間の入浴も家族の了承を得て実施している。		利用者の気分を害さないよう声かけを行い、楽しんで入浴ができるよう配慮している。また、家族や本人の希望で、毎日夜間の入浴支援を行い、好みのシャンプーを使用するなど、楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の設定も特にせずに、眠くなったら寝てもらえるよう、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルにて管理している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来ることを大切にし、玄関掃除等、仕事としてとらえている入居者には満足いくように掃除をしてもらい、御礼を伝えるようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出はもちろんだが、数名ずつでも外出できるよう、計画・実行している。		日常的に散歩をしたり、毎日の食材の買い物に利用者数名と出掛けるなど工夫している。また、カラオケ教室や書道教室へ継続して通えるよう、ホームの送迎を含め、家族と連携し、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	そよかぜユニット	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つ場合は、ご家族の同意の下で所持していただく。預かり金は取り扱っていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を希望される場合は、必要に応じ連絡をしている。また、家族からの電話、手紙も取り次いでいる。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	無駄な飾りつけはせず、落ち着いた空間になるよう配慮している。	換気、採光に配慮している。玄関には利用者の押し車をおくスペースがあり、また、居心地よく過ごせるようソファやテレビなどを配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックではテレビの前にソファがあり、そこで横になってくつろげるような環境づくりをしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はベッド以外は持ち込みの家具等になり、本人、家族の希望にあわせ、じゅうたんや椅子を置かれる方もいる。	利用者の使い慣れたたんすや仏壇、趣味の作品などが持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう配慮している。また、本人や家族の希望で絨毯を敷くなど、温かみのある居室となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドからトイレまでの距離が近いほうがいい方は配置を換えたり、立ち上がりに必要な場合は机を置いたりしている。			